

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|--------------------------|---------|--|----|
| (人間文化学部メディア情報文化学科等) | | | |
| 科目 区分 | 授業科目の名称 | 講 義 等 の 内 容 | 備考 |
| 一般教育科目 A 自然科学と情報処理 | 数学 (1) | 方程式を解くことは、科学の多くの場面で遭遇する最も基本的な数学である。方程式は大きく、「解の公式があつて解けるもの」「公式は無いけれど解けるもの」「簡単には解けないもの」のように分類することができる。本講義では、代表的な方程式とその解の公式、および簡単には解けない方程式を近似的に解く方法を紹介する。 | |
| | 数学 (2) | 本講義では、数学 (1) で学習した内容を復習し、着実に定着させながら、さらに発展させることを目的とする。方程式の応用として微分積分法を扱い、その計算技法を学ぶ。さらに、面積の近似法、三角関数の定積分を応用したフーリエ級数などについて学習する。ここで数学的な「カン」を養うことで、多方面の専門的な研究へ活かすスキルを身に付ける。 | |
| | 物理学 (1) | 夜空に瞬く星、雨後の空にかかる虹など、身近に経験する自然現象の数々を不思議だと感じる人の心は、今も昔も変わりはない。本講義では、物理学進展の歴史をたどりながら、様々な自然現象を物理学的な視点から見るとどう説明されるのか、数学や物理に関する特別な予備知識を前提とせず、できる限り平易に解説する。 | |
| | 物理学 (2) | 本講義は、物理学 (1) での学習内容をより深く追究することを目指す。物理学の発展してきた過程をたどりながら、日常的に遭遇するさまざまな物理学的事象についてその原理を解明し、物理学の体系的構成を明らかにしようとするものである。身近な事例をもとに、物理学および科学的なモノの見方を身に付けることを目的とする。 | |
| | 化学 (1) | これから化学を学ぼうとする学生諸君に対して、「化学とは何か」からはじめて、日常目にすることの多い無機化合物の名称や性質を系統的に理解させるのが目的である。本講義では、原子構造、元素の性質、化学結合などを学んだ後、身近に存在する代表的な無機化合物を取り上げて、その名称、溶液の性質、用途及び酸化と還元反応などについて解説を行う。 | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|--------------------------|----------|---|----|
| 一般教育科目 A 自然科学と情報処理 | 化学(2) | <p>本講義は、化学にあまり縁の無い学生諸君が、最低限身のまわりにある有機化合物の名称、化学構造および性質を正しく理解できるようにするのが目的である。具体的には、有機化合物の分類や命名法を習得することを目指す。日常生活に関わりのある有機化合物についての知識を身に付けることを通して、有機化学の基礎知識を深めていく。</p> | |
| | 自然と人間 | <p>人間は様々な自然環境要素に囲まれて生活を営み、自らも環境を形成する要因となっている。しかし、有史以来、人間は自身の生活を快適にする目的から数々の環境問題を引き起こし、自然破壊を進行させてきた。本講義では、これまで人間が引き起こし、現在進行形でもあるさまざまな環境問題を題材に、自然環境と人間との関係を考察する。</p> | |
| | 人体のしくみ | <p>現在、生物が発生して、およそ40億年が経つと考えられている。そのなかで、人間は数百万年前に発生したと考えられている。本講義では、生物の一種である人間を知るために、「遺伝子」などの分子のレベルから。「ヒト」という個体のレベルまで、ミクロな視野からマクロな視野まで概観する。また、生物の繁殖に必要な生殖など生物の基礎的な仕組みを解説する。</p> | |
| | 地理情報科学入門 | <p>地理情報科学は、国土の情報基盤をになう科学であり、現代地理学の主要な対象である。地理情報科学の目的は、環境と調和した国土開発を実現し、交通・通信といった広域に渡る公共施設を維持管理し、防災、医療などの情報を伝達し、利用して国民へのサービスと意思決定の手段を提供する。本講義では、スライド、ビデオなどのビジュアル資料を多用し全容を優しく紹介する。</p> | |
| | 自然地理(1) | <p>陸海の配置、高山低地、寒暑乾湿、山川草木、生態環境、食物連鎖を世界的に、日本全体として身近生活体験を通じて、理解を深める。講師自身の海外現地調査、観察旅行での体験・見聞を踏まえ、地域を見据え、用語を大切にキャッチコピー(標語)として講述する。そして自然観・世界観を培い、環境保全の態度を養う。</p> | |
| | 自然地理(2) | <p>本講義では、本大学が立地する中国地方の瀬戸内海沿岸を中心に取り上げ、この地域についての地形・気候・土壌・陸水・植生について詳細に解説を行う。自然地理的な要件が、地域の歴史や文化の醸成にどのように影響してきたかについても考えてみたい。そこから、地域における開発・保全・防災・環境問題に取り組むための基礎的な知識と、態度を育てることを目的とする。</p> | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|-----------|---|----|
| A | 自然科学と情報処理 | | |
| | 情報社会概論(1) | 情報社会とは、社会のなかで情報が価値を持ち、企業・家庭にICT・パソコン等の情報通信機器が普及して、情報が重視される社会である。本講義は、コンピュータの誕生からICT革命と呼ばれている今日までの情報化の意義を体系的・総合的に学び、今後の情報社会のあるべき姿を見出すことを目的とする。家庭の情報化の取り組みや、情報リテラシー教育などから、情報社会において必要とされる基礎知識について考察する。 | |
| | 情報社会概論(2) | 本講義では、地域社会を構成する企業・行政・学校などの各セクターの情報化・情報システムの取り組みを解説しながら、地域社会のなかでのICT・情報化の意義・役割について学ぶ。ますます地域活性化にICT・情報化が期待されている中で、情報化推進の知識や技術はどのように扱われていくべきであろうか。学生諸君の積極的な議論を通じて考察を行う。 | |
| B | 一般教育科目 | | |
| | 社会構造と生活 | | |
| | 憲法(1) | 本講義では、憲法とはなにか、憲法の基本原理にはどのようなものがあるのか、などの基礎的な知識を学びつつ、特に基本的人権について重点的に扱う。講義ではできるだけ身近な憲法問題をとりあげる。事例の検討などを通じて、受講者各自が様々な問題意識をもち、自由に、柔軟に思考する力を身に付けることを目指す。 | |
| | 憲法(2) | 本講義では、日本国憲法に定められた統治機構、そしてその背後にある諸原理について学ぶ。国家のしくみがどうあるべきか、というのは人権保障にとってもひじょうに重要な問題である。学生諸君の中には、統治機構という言葉を聞くだけでは、自分たちには関係ない、縁がない、と思う向きもあるだろうが、そんなことはないのである。様々な事例を学ぶことで、自分たちの人権保障に資する国家の仕組みというのがどうあるべきかを考える契機となる内容を扱う。 | |
| | 法学概論 | 現代社会は、高度に複雑化・多様化・国際化しており、それに伴い、これまでに生じた問題が量的に拡大しているだけでなく、質的にも異質な問題が新たに生じている。社会生活においては、法学の重要性が認識され、且つ、必要不可欠なものとなっている。そこで、今日の社会に生起する様々な問題をリーガルセンスで考え、基礎知識の修得に至るまで解説を行う。 | |
| | 経済学(1) | 経済学入門のテキストに即しつつ、できる限り現実の経済問題や統計データを盛り込みながら講義する。前半は「市場経済の構造と経済循環」「交換の利益と生産」「市場機構と価格の役割」「需要と供給の法則」など、経済学の基本問題を扱うことで経済学の全貌を明らかにしていく。後半は、具体的な事例を取り上げ、ケーススタディを行っていく。 | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------------|--------------|---|---|
| 一般教育科目 | B 社会構造と生活 | 経済学(2) | ケインズ「一般理論」を中心に、経済学とは何かを講義する。なお『一般理論』の目次は次の通りである。 第1編 序論 第2編 定義と基礎概念 第3編 消費性向 第4編 投資誘因 第5編 貨幣賃金と物価 第6編 一般理論の示唆する若干の覚書 |
| | | 教育原理 | 将来、教職を強く志す学生を主たる対象とする。本講義は以下の三つの主要部分より構成される。(1)教育の本質等に関するもの。(2)教育の歴史等に関するもの。(3)近代以降の学校教育の拡大と、「自己実現的価値」・「手段的価値」等に関するもの。これら三つの部分を中心として、歴史的、国際的、社会学的観点から検討を加える。講義を通して、教育に関する原理的観察力の育成を目指す。 |
| | | 比較教育制度論 | 将来、教職を強く志す学生を主たる対象とする。本講義は以下の五つの主要部分より構成される。(1)近代社会と近代公教育制度の基本的性格ならびに相互の関連。(2)教育制度の諸原理等。(3)教育行財政制度。(4)教育経営・学校経営の制度。(5)世界の中の日本の教育。これらの検討を通して、歴史的・国際的視野の下、教育制度、教育行財政、教育経営等につき基礎的な理解を深める。 |
| C 歴史と文化 | 日本史(1) | 日本列島内における歴史を平易に解説する。本講義においては、特に日本列島における国家の成立のその展開、変質について解説し、日本の古代国家の特質を明らかにする。これまで日本史の授業を履修したことのない学生にも取り組みやすくなるよう、基本的な歴史的事実に絞って解説し、その歴史的な事実が生じた背景と、後の社会に及ぼした影響を考察する。それによって歴史が現代に至るまで継続していることへの理解に努め、現代社会を歴史的に考察する視点を養うことを目指す。 | |
| | 日本史(2) | 日本列島内における歴史を平易に解説する。本講義においては、特に武家政権の成立と展開と、経済活動の活発化によって社会の主たる担い手がめまぐるしく変動する日本の中世国家の特質を明らかにする。これまで日本史の授業を履修したことのない学生にも取り組みやすくなるよう、基本的な歴史的事実に絞って解説し、その歴史的な事実が生じた背景と、後の社会に及ぼした影響を考察する。 | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|----------------------|---------|---|----|
| 一般教育科目 C 歴史と文化 | 世界史(1) | <p>世界史という科目は、「グローバルに展開する人間の営みを説明するものである」という立場と、「グローバルに散在する人間、すなわち諸民族、諸国家のいずれにも適合されうる歴史現象を取り上げて、その普遍的側面を説明するものである」という立場に大別されるであろう。しかし、本講義では両者の立場を併せることのできる題材として、「イギリス」を取り上げ、世界史上の典型である理由を明らかにする。</p> | |
| | 世界史(2) | <p>世界史(1)では、世界史という科目の2つの立場に立脚するテーマとして「イギリス」を概観した。本講義ではさらに詳しく「イギリス」を捉えていきたい。具体的には、古代、中世のブリテン島の歴史を概観し、近代イギリス社会の成立とその特色を説明する。アングロ・サクソン・ノルマン人としてのイギリス人が島国に縮小したことから海外発展して世界帝国を形成することになったダイナミズムが本講の中心課題である。</p> | |
| | 人文地理(1) | <p>人文地理学の内容は極めて多方面にわたっている。本講義では地理学の発達を通して人々がどのように地理的視野を広げ、この学問を成立させてきたかをたどり、次に人間生活の舞台としての自然環境を概観する。これらの基礎知識を習得した後、文化地理や人口地理の内容に入る。文化地理では民族と民族問題、人口地理では分布・構成・移動・人口問題などを扱う。</p> | |
| | 人文地理(2) | <p>本講義では、経済地理の中でも重要視されている工業地理を扱う。工業立地の理論や各種工業の地理的特質、世界や日本の主要な工業地域について論述する。もう一つの柱は、集落地理といわれる分野で、農村・都市それぞれの立地の特色や歴史地理学的考察、都市の中心地理論・都市構造・都市問題などについても概説する。地図帳や地形図の読図など演習的要素も加えて、地理的な興味・関心が湧くような内容を扱う。</p> | |
| | 地誌 | <p>地誌とはどのようにして成立した学問か、その発展の過程を地理的視野の拡大を通して学習し、近代地理思想が発達する中で地誌がどのように位置付けられていくかを考察する。また、中学校や高等学校における地理のなかで地誌がどのように扱われているかを見て地理的見方、考え方は何か考察する。地誌を学習する上で基礎となるグローバルな自然環境、人的環境(人種民族 人口など)について概説する。</p> | |

| 科目 区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|-----------------|---------|--|----|
| 一般教育科目 D | イスラム文化 | 現代においては、イスラムを知らずしてグローバルな展開はありえない時代になっている。本講義では、イスラムの歴史、イスラム教とは、イスラムの人々の生活・考え方、現代世界におけるイスラムの位置付け・動向、そして異文化理解のあり方を考える。(オムニバス方式/全15回) (調書番号32:島 敏夫/5回) (調書番号14:吉田一衛/5回) (調書番号23:丹藤浩二/5回) | |
| | 哲学(1) | 哲学者とは、私たちが通常「当たり前」とみなしていることを疑い、考え抜こうとした人たちのことである。彼らにならって物事を徹底的に考えようとするなら、私たちも「常識」を無反省に受け入れることはできなくなるだろう。そこで頼りになるのは、「正しく考えること」しかない。常識という陸地が見えない海原を航海するには、思考というコンパスを正しく使えなくてはならない。本講義では、そのための練習をしていく。 | |
| | 哲学(2) | 「常識」とは、何かを考えたり判断するための出発点にはなるが、「常識」それ自体について考えられたり判断されたりすることは通常ない。しかし、哲学者といわれる人たちは「常識」を当たり前とは感じず、それについて筋道立てて考えようとした。これは他人によって容易には理解されない作業である。本講義では、哲学者が実際にどのようにその作業に取り組んだかを概観していく。 | |
| | 発達心理学 | 人の一生の変遷を心理学的視点から捉え、社会性の発達やパーソナリティの発達、認知機能の発達など、領域別の発達のプロセスについて解説する。また、乳幼児期・児童期・青年期・中年期・老年期といった発達段階ごとの発達の特質や発達課題、生涯発達の観点からの各期の位置付け(特質や意義)について論じる。この講義を通じて、心理学的な観点からの発達のプロセスの理解、各発達段階の特質についての理解を深めることを目指す。 | |
| | 倫理学(1) | 人間は古来、理性的動物と云われているが、理性(知性)の発生は無害なものではなかった。知性の発達と共に人類は、死の不安におびえるようになり、エゴイズムの発生は、人間同士の争いを生むことになった。本講義では、このような総合的視点に立って、現代に生きる人間社会の理法を明らかにし、価値判断の基本となる正しい人生観、世界観を確立することを目指す。 | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 | |
|--------|--------------|---------|---|--|
| 一般教育科目 | D 思索と創造 | 倫理学(2) | 私たちがよく生きるためにはどのような倫理観が必要なのだろうか。エゴイズムの発生は、人間同士の争いを生むことになった。そのため、人類は、エゴイズムの制御装置を考えざるを得なくなった。道徳はエゴイズムに対する内的制御装置であり、法は外的な制御装置と云えよう。本講義では、このような観点から、多様化する現代における倫理とその規定原理について考えていく。 | |
| | | 史学概論(1) | 歴史を作り出す人間を「英雄」と「庶民」に分けると、いずれがより多く歴史形成に関与していると考えられるだろうか。「英雄の歴史」と「庶民の歴史」のいずれが我々の抱く歴史像に近いのだろうか。本講義では、英雄の歴史に焦点を絞って解説したい。まず、西洋古代における伝記文学の成立史を取り扱う。次に、歴史上の英雄を取り上げ、歴史発展の条件と英雄個人の人的条件との関わりを中心に説明していく。 | |
| | | 史学概論(2) | 史学概論(1)では、「英雄の歴史」を扱ったのに対し、本講義では、「庶民の歴史」に焦点を絞って解説を行う。近年、歴史研究の大きな流れも、英雄や支配者の歴史から庶民の歴史へという視点に移動している。そもそも「庶民」とはどのような人たちのことか、「庶民」がどのように形成されてきたのか、という問いについて詳細に言及する。 | |
| | E 芸術とスポーツ | 書道 | 書道の学習を通して、芸術的能力を伸ばし、情緒を豊かにし、創造性に富む個性豊かな人間の育成を目指す。主に以下の3つに注力していきたい。 (1) 実技・書写能力を高める(基本の習熟)。 (2) 漢字・かなを臨書・創作することにより、表現力・鑑賞力・創造力を高める。 (3) 生活に役立つ書式について学び理解を深める。 | |
| | | 絵画 | 絵画を描くことを中心に学習を展開する。内容は素描、色彩や構図、色材を使用する風景画や静物画の制作など、できるだけ基礎的な表現技術の修得と、その向上をめざしたい。なお、主題性、二次元性など絵画の今日的意味や課題についても、作品制作の過程で具体的に考えていきたい。また、絵画を見ることにも重点を置き、作品制作後の合評会や市内及び近郊の美術館等への合同鑑賞も行う。 | |
| | | 陶芸 | 粘土という非常に可塑性に富んだ素材を、焼くことによって終結させるという陶芸の特徴を考慮し、「自己の現在の感性を粘土をつかって具現化させる」といったテーマを課し、伝統的なロクロを使用した制作を重点に行う。本授業では、技法習得の上手下手ではなく、あくまで個性、独創性の発揮とその延長上にある各個人の創造性の手助けに重点をおいた指導を行う。 | |